

【短報】

## 日本におけるノルゲスグ (カヤツリグサ科) の分布と現状

石川弘晃<sup>1</sup>・加藤ゆき恵<sup>2</sup>・矢野興一<sup>3</sup>・富士田裕子<sup>4</sup>・首藤光太郎<sup>5,\*</sup>

(<sup>1</sup> 北海道大学大学院農学院 〒060-0810 北海道札幌市北区北 9 条西 9 丁目;

<sup>2</sup> 釧路市立博物館 〒085-0822 北海道釧路市春湖台 7-1;

<sup>3</sup> 岡山理科大学生物地球学部 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1;

<sup>4</sup> 北海道大学大学院農学研究院 〒060-0810 北海道札幌市北区北 9 条西 9 丁目;

<sup>5</sup> 北海道大学総合博物館 〒060-0810 北海道札幌市北区北 10 条西 8 丁目)

Hiromitsu ISHIKAWA<sup>1</sup>, Yukie KATO<sup>2</sup>, Okihito YANO<sup>3</sup>, Hiroko FUJITA<sup>4</sup> and Kohtaroh SHUTOH<sup>5,\*</sup>: Distribution and current habitat status of *Carex mackenziei* (Cyperaceae) in Japan

(<sup>1</sup>Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Kita 9 Nishi 9, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-8589, JAPAN; <sup>2</sup>Kushiro City Museum, Shunkodai 7-1, Kushiro, Hokkaido 085-0822, JAPAN; <sup>3</sup>Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, JAPAN; <sup>4</sup>Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Kita 9 Nishi 9, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-8589, JAPAN; <sup>5</sup>The Hokkaido University Museum, Hokkaido University, Kita 10 Nishi 8, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-0810, JAPAN)

\*Corresponding author: shutoh@museum.hokudai.ac.jp

(2025 年 12 月 9 日 受理)

**Abstract:**

In Japan, *Carex mackenziei* V.I.Krecz. is known only from salt marshes of eastern Hokkaido, and its records are limited. To clarify its distribution and current habitat status, we conducted field survey at seven salt marshes in Nemuro-shi and Akkeshi-chô in eastern Hokkaido as well as specimen survey at seven herbaria in Japan. The field surveys confirmed the species at only two sites in Nemuro-shi, but not at five sites, including Akkeshi-chô, its previously known habitat. Population size varied among locations: while the population in the upper bay was large, those near the estuary were not, possibly reflecting the geomorphological stability. The specimen survey indicated that part of the records from Hamanaka-chô was based on misidentified specimens, resulting only Nemuro-shi and Akkeshi-chô are reliable locality of this species in Japan.

はじめに

ノルゲスグ *Carex mackenziei* V.I.Krecz. は北欧およびバルト地方、中央シベリア、極東アジア、北米大陸北部に分布するスゲ属ハクサンスゲ節の多年草である (Egorova 1999, Toivonen 2002, Koopman 2011, 勝山 2015a, Hoshino et al. 2020)。和名は、学名の異名でノルウェーから記載された *C. norvegica* Willd. ex Schkuhr に由来し (宮部・三宅 1915, 牧野 1940)、カラフトスゲとも呼ばれる (中井 1915)。国内に分布する類似種としてはハクサン

スゲ *C. canescens* L. やタカネヤガミスゲ *C. lachenalii* Schkuhr が挙げられるが、塩性湿地に生え、小穂の鱗片が褐色を帯び、果胞が雌鱗片から超出しない点で区別される（勝山 2015a, b）。海外に分布する類似種としてはサハリン沿岸部に産するススヤスゲ *C. glareosa* Wahlenb. があり、匍匐枝を出し、葉幅が 1.5 mm を超え、頂小穂が棍棒状で、花序が垂れ下がらない点で識別可能である（秋山 1955, Tolmatchev 1974, Egorova 1999, 高橋 2025）。北欧や北米東岸では、ハクサンスゲとの雑種 *C. × pseudohelvola* Kihlm. が知られる (Toivonen 1980)。

本種の生育環境は寒冷地の塩性湿地に限られ (Toivonen 1980)、本邦では北海道東部の「釧路・根室」の塩性湿地にのみ分布が知られる（勝山 2015a, b, 星野ほか 2011）。環境省第 5 次レッドデータブックでは絶滅危惧 IB 類に指定されており（環境省 2025）、沿岸開発による生育地消失リスクも指摘されているが（環境庁 1988, 滝田 1996）、元来より道内における生育状況に関する情報が乏しい。「根室」即ち根室振興局管内では、根室市にのみ記録があり (Miyabe & Tatewaki 1936 など、表 1 参照)、根室市教育委員会 (2007) と内山 (2007) 以降生育報告がない。星野ほか (2011) には温根沼産のノルゲスゲの図版記録があるが確認年や生育状況の記載は無い。また、すげの会 (2018) では 1981 年、1985 年、1990 年、1997 年に根室市の 2 地点で採集された標本 18 点が引用されているのみである。

「釧路」即ち釧路総合振興局管内では、厚岸町・厚岸湖で藤原 (1988) と宮脇 (1989) が初めて本種を報告し、同所では滝田・高嶋 (2003) の生育報告が最も新しい文献記録である。勝山 (2015a, b) の写真記録も 2002 年に撮影されたものである。すげの会 (2018) では 2001 年と 2002 年に厚岸郡で採集された標本 6 点が引用されているのみである。この他、浜中町・霧多布湿原では霧多布湿原トラスト (2004) と霧多布湿原ナショナルトラスト (2018) が、文献調査と現地調査をもとに榎町と仲の浜の 2 地点で本種を記録している。

筆者らは 2021 年から 2025 年にかけて、根室振興局管内の複数の塩性湿地と滝田・高嶋 (2003) が報告した厚岸湖を踏査する機会を得た。また標本庫における標本調査に基づき、過去の文献記録の誤りや確認を要する事項をいくつか見出した。そこで本報では、現地観察と標本記録の結果を報告し、文献記録と共に本種の北海道における分布と現状を整理した。

## 方法

現地調査は、2021 年から 2025 年にかけて根室市、別海町、厚岸町の計 7 地点の塩性湿地で実施した（図 1A）。石川・首藤・富士田が 2023 年 7, 9 月に①別海町・風蓮湖北西岸（図 1B）、②根室市・コタンケシ川河口（図 1C）、2025 年 6 月に③根室市・温根沼の西岸北部（図 1D）、2024 年 8 月に石川・首藤が④根室市・長節小沼の全域（図 1E）、全著者らが 2025 年の 6, 7, 8 月のいずれかに⑤根室市・温根沼西岸南部（図 1F）を踏査した。加えて、首藤・矢野が 2021 年 7 月に⑥根室市・温根元（図 1G）、2021 年 7 月および 2023 年 6 月に、滝田・高嶋 (2003) の報告と同地点とされる⑦厚岸町・厚岸湖北部を踏査した（図 1H）。コタンケシ川河口については、2024 年 7 月と 2025 年の 6 月にも再訪したが、潮汐に伴う水没により確認が出来なかった。

標本調査は、石川が 2024 年 11 月に根室市歴史と自然の資料館、2025 年 10 月に北海道大学総合博物館陸上植物標本庫 (SAPS)、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 (SAPT)、加藤が 2025 年 7 月に釧路市立博物館 (KCMH) および霧多布湿原センタ

一 (KWNT-P)、矢野が 2025 年 11 月に神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM) および岡山理科大学植物標本庫 (OKAY) で行った。また、石川が 2025 年 11 月 27 日にサイエンス・ミュージアム・ネット (S-Net) において本種の標本検索を行った。

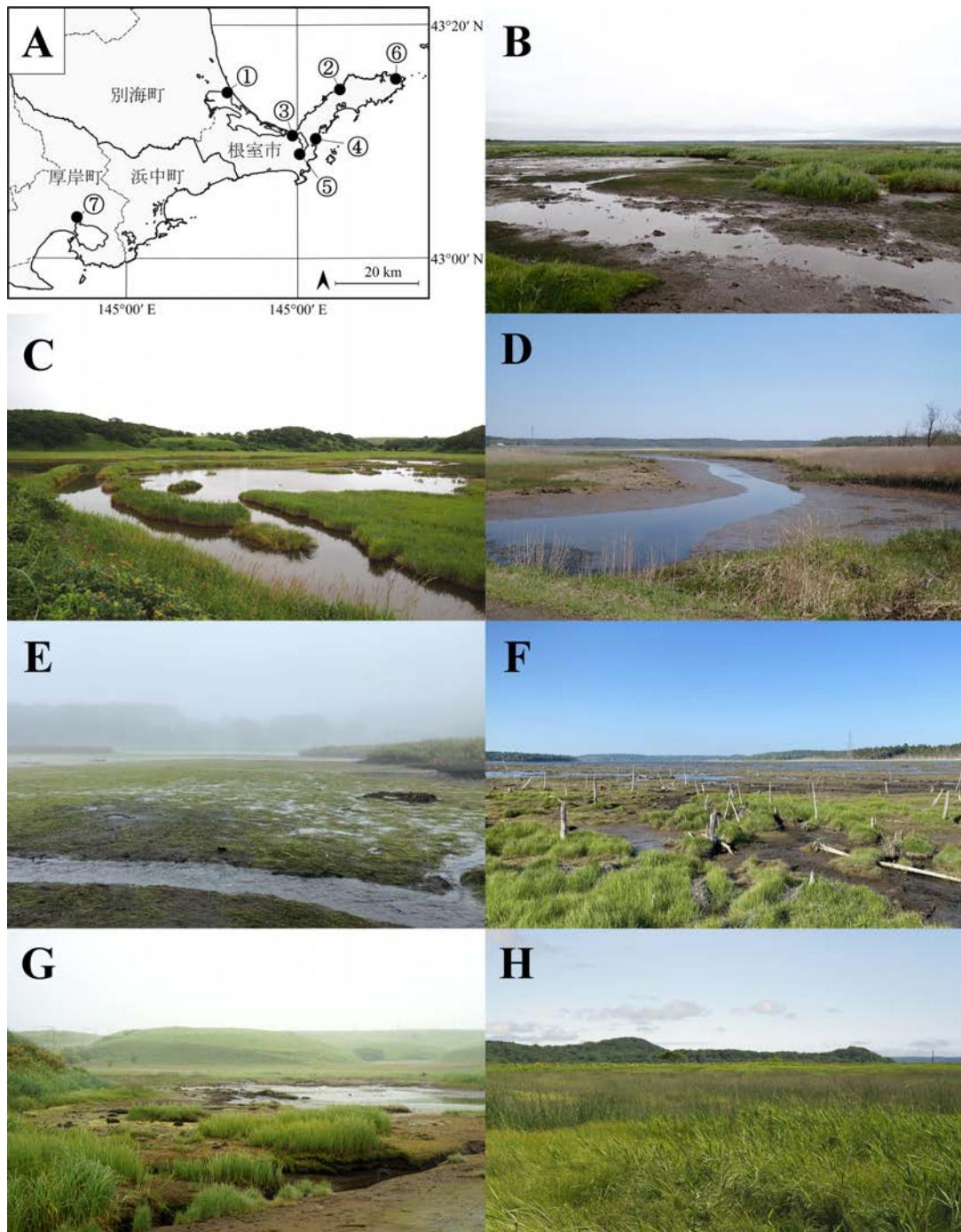


図 1. 調査地とその遠景。撮影者の無い写真は石川が撮影。A: 調査地点。地点番号①-⑦は本文と対応。B: ①風蓮湖北西岸 (2023 年 7 月 18 日)。C: ②コタンケシ川河口 (2023 年 7 月 19 日)。D: ③温根沼西岸北部。調査は写真的右手奥で 6 月に実施 (2025 年 5 月 22 日)。E: ④長節小沼。霧天 (2024 年 8 月 29 日)。F: ⑤温根沼西岸南部 (2025 年 6 月 9 日)。G: ⑥温根元 (2021 年 7 月 8 日; 首藤撮影)。H: ⑦厚岸湖北部 (2023 年 6 月 25 日; 首藤撮影)。

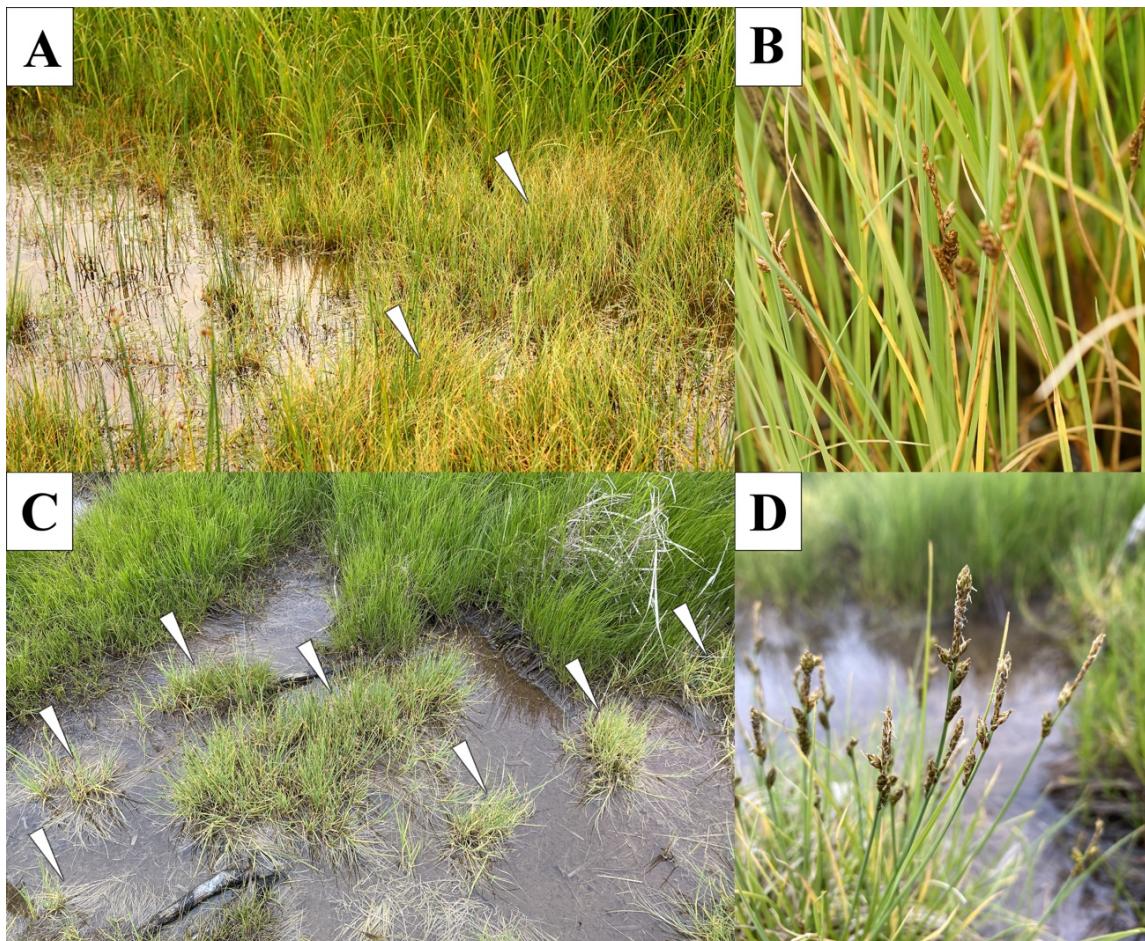


図 2. 根室市のノルゲスゲ. A, B: コタンケシ川河口 (2023 年 7 月 19 日; 首藤撮影). C, D: 温根沼西岸南部 (2025 年 6 月 7 日; 石川撮影). A: 浅瀬から陸地にかけて生育していたノルゲスゲ (草丈が低く緑白色の植物がノルゲスゲ). 楔形の先はノルゲスゲが密に生育している箇所. C: 泥土の流水路内に単生していたノルゲスゲ (楔形の先). 周囲の鮮緑色の植物はヒメウシオスゲ. B, D: ノルゲスゲの花序.

## 結果

### 現地調査

踏査した 7 地点の内、②根室市・コタンケシ川河口および⑤根室市・温根沼西岸南部にてノルゲスゲの生育を確認し、他 5 地点 (①、③、④、⑥、⑦) では確認できなかった。

ノルゲスゲが確認された 2 地点はいずれも汽水環境であったが、生育規模や立地が異なっていた。コタンケシ川河口では、川の流れが殆ど無い湾処状地の一部、約 10 m 四方の範囲にのみ分布し、泥底の浅瀬から陸地にかけて生育していた。浅瀬部ではノルゲスゲが単生するか、ホソバノシバナ *Triglochin palustris* L. やフトイ *Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C.Gmel.) Palla が隣接し、陸地部ではクロハリイ *Eleocharis kamtschatica* (C.A.Mey.) Kom.、ヒメウシオスゲ *C. subspathacea* Wormsk.、ヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud. と混生していた (図 2A, B)。温根沼西岸南部では、汀線から内陸側約 75 m から 120 m にかけて、汀線に沿って長さ約 150 m の範囲に分布していた。ノルゲスゲは、汀線側の泥土部では地表に発達した流水路内に単生するか、流水路外でヒメウシオスゲと

混生し（図 2C, D）、内陸側ではヨシ、ヌマガヤ *Molinoiopsis japonica* (Hack.) Hayata、コウキヤガラ *Bolboschoenus koshevnikovii* (Litv. ex Zinger) A.E.Kozhev.、エゾハコベ *Stellaria humifusa* Rottb.、ハチジョウナ *Sonchus brachyotus* DC. といった草本類と混生していた。コタンケシ川と温根沼西岸南部の両生育地において、ノルゲスゲはマット状に広がっている部分があったため個体数の測定は困難であったが、地上茎は数百～数千本以上の規模に及ぶと推測された。

### 標本調査

ノルゲスゲの標本は全 28 点あり、これらの内訳は根室市の 4 地点から採集された標本 13 点、厚岸町の 1 地点から採集された標本 15 点であった（表 1, 図 3）。このうち 3 点は今回ノルゲスゲに再同定された標本であり、それぞれ *C. sorioskensis* H.Lév. & Vaniot に同定・配架された標本（根室市 風蓮湖東梅, S. Akiyama s.n., 23 July 1935, SAPS 070837 & 070838）と、ハクサンスゲと同定された標本（根室市 春国岱, H. Kobayashi 746, 5 June 1985, 根室市歴史と自然の資料館 1995-946）であった。一方、KCMH と KWNT-P に各 1 点あつた浜中町・霧多布湿原の榎町産のノルゲスゲ標本はハクサンスゲに再同定された。さらに『日本産スゲ属植物分布図集』（すげの会 2018）に引用された標本 No. 1（根室市 別海町, M. Sato s.n., 23 July 1997, OKAY-13273）はタルマイスゲ *C. buxbaumii* Wahlenb. であった。霧多布湿原ナショナルトラスト（2018）に記載された仲の浜産標本は見出されなかった。

S-Net による検索では、標本調査を行った機関以外で 8 機関に 25 件があり、内訳は、厚岸郡の標本が 3 件、根室市の標本が 17 件、北海道の産地非公開標本が 2 件、長野県の標本が 1 件、栃木県の標本が 2 件であった。厚岸郡の 3 件の標本は、採集日が藤原（1988）の報告と一致する標本であった。なお、北海道の産地非公開標本の 2 件および長野県の標本については、各館に問い合わせたところ、誤入力あるいは誤同定に基づく記録であった。

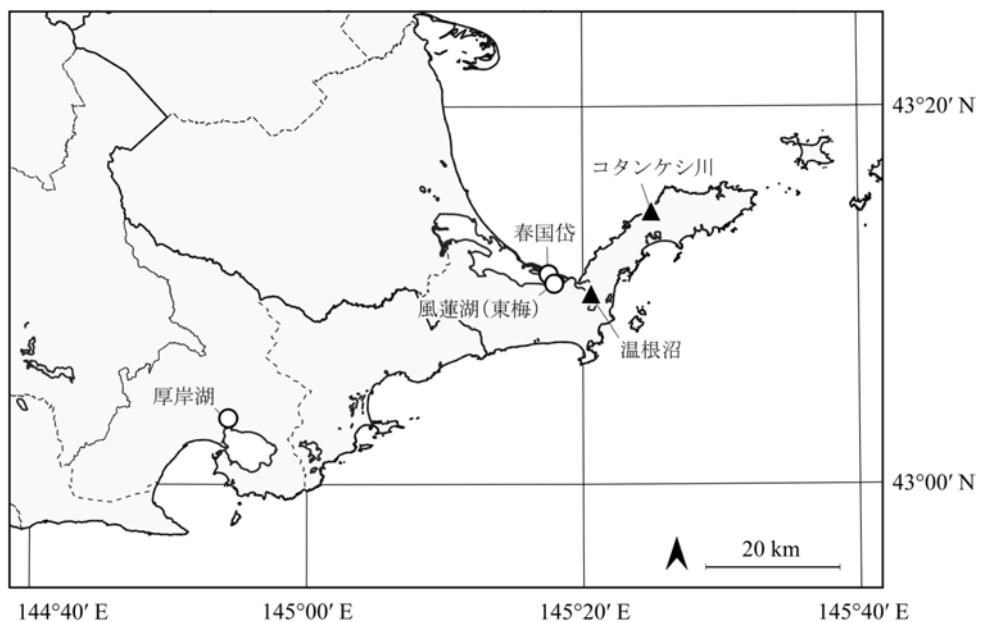


図 3. 北海道におけるノルゲスゲの分布. ○▲: SAPS, SAFT, KCMH, KPM, OKAY, 根室市歴史と自然の資料館の収蔵標本. 温根沼は代表点（湖の中心）をプロットした. ▲: 本研究の踏査で生育が確認できた地点.

表 1. ノルゲスグの文献上の産地と標本の有無

総合振興局 ・振興局	市町村	地名	文献	標本	記録 確実性	
根室	根室市	春国岱	Miyabe & Tatewaki (1934); 合田 (2004)	○	○	
		風蓮湖 <sup>1</sup>	合田 (2004)	○	○	
		温根沼	Ohwi (1936); 滝田 (1987, 1996, 2001); 根室市教育委員会 (2007); 内山 (2007); 星野ほか (2011)	○	○	
		コタンケシ川	Ishikawa et al. (accepted)	○	○	
釧路	厚岸町	厚岸湖	藤原 (1988); 宮脇 (1989); 滝田 (2001); 滝田ほか (2001); 高橋ほか (2002); 滝田・高嶋 (2003); 勝山 (2015a, b)	○	○	
		浜中町	霧多布湿原	霧多布湿原トラスト (2004); 霧多布湿原ナショナルトラスト (2018)	※	※
		湧別町、 佐呂間町、 北見市、 網走市	サロマ湖～濤沸湖	北海道 (2001)	×	文献のみ
十勝	新ひだか町、 中札内村	カムイエクウ チカウシ岳	合田 (2004)	×	除外	
空知	芦別市	嵯山	合田 (2004)	×	除外	

<sup>1</sup> 風蓮湖は別海町と根室市に跨るが、根室市側の東梅にのみ記録がある。

※ 榛町と仲の浜に記録があるが、榛町産のノルゲスグ標本はハクサンスグの誤同定標本で、仲の浜は文献記録のみ。

## 考察

### 産地の整理

現地調査、文献記録、標本庫の標本調査の結果に基づくと（表 1）、ノルゲスグの産地は根室市と厚岸町に限られる（図 3）。S-Net に登録されている標本とも矛盾はない。栃木県の標本については長野県の記録と同様、誤入力あるいは誤同定に基づく記録と考えられる。また、これまでの本種の文献上の記録は以下の通り整理できる。

霧多布湿原では、『霧多布湿原いきものリスト 2004, 2018』（霧多布湿原トラスト 2004, 霧多布湿原ナショナルトラスト 2018）において本種が榛町と仲の浜に記録されているが、榛町の記録はハクサンスグの誤記録で、仲の浜の記録には証拠標本が無い。仲の浜の記録は霧多布湿原トラスト (2004) の文献記録種を引用したと考えられるが、入手困難な文献であり、出典の特定には至らなかった。標本採集を伴う現地確認を要する。

『北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001』（北海道 2001）では本種を根室、釧路の他にサロマ湖～濤沸湖の地域に記録しているが、これを裏付ける文献や標本は確認できなかった。唯一該当し得る記述としては、宮脇 (1989)『日本植生誌 北海道（第 2 版）』の植生表 Tab. 66 にて、厚岸町のヒロハスギナモノルゲスグ群落の調査地点を「紋別郡湧別町サロマ湖サンゴ岬」とする誤植があり、これが情報源になった可能性がある。

『北海道植物誌 — 北海道植物分布記録保存集 —』（合田 2004）では北海道大学収蔵の標本の記録として、春国岱、風蓮湖東梅、十勝カムイエクウチカウシ岳、嵯山（原文：キリギシ岳）の 4 点を挙げているが、後者 2 点は山地であることから別種を見誤った可能性が高い。春国岱は Miyabe & Tatewaki (1934) の証拠標本、風蓮湖東梅は秋山茂雄コレクションの *C. soriofakensis* カバーの標本を見たと考えられる。*Carex soriofakensis* はススヤスグ

*C. glareosa* の異名とされることが多いが (Egorova 1999, 高橋 2025)、秋山 (1955) はその一部を *C. mackenziei* の異名として挙げている。

『日本産スゲ属植物分布図集』(すげの会 2018) では根室市と厚岸郡から採集された標本 24 点の情報を挙げているが、分布図上の一一番西の地点とやや内陸部に位置する地点が標本情報と異なる。分布図上のやや内陸部に位置する点はタルマイスゲであった標本 No. 1

(根室市 別海町, M. Sato s.n., 23 July 1997, OKAY-13273) であり、標本データと分布図上の点の削除が必要である。また、分布図の一一番西に位置する点は、標本 No. 25 (厚岸町, T. Katsuyama et al. s.n., 24 June 2002, KPM-NA0122382) であり、座標の入力ミスによるものと思われるため、分布図上の点の修正が必要である。

### 生育地の現状と課題

生育地の現状は地点によって大きく異なる。特に、厚岸湖北部 (図 1⑥) およびコタンケシ川河口 (図 1②) と温根沼西岸南部 (図 1⑤) は量・質ともに対照的である。今回の現地調査でも生育が確認できず、過去にノルゲスゲの記録があった厚岸湖では、滝田・高嶋 (2003) において既に本種の発見が困難であったことが報告されている。これは、コタンケシ川河口のように分布が局所的であったか、散発的で個体量も多くなかったためであると考えられる。さらに、2018 年すげの会釧路大会後の 6 月 25 日に厚岸湖北部の生育地において、泥をかぶっていたものの多くの個体数の生育を確認したが、その後 2019 年以降にさらに土砂が流入し、個体群が消滅してしまった可能性がある (勝山輝男氏 私信)。一方、温根沼西岸南部の生育地は面積にしてコタンケシ川河口の数十倍以上の規模があり、Ohwi (1936)、内山 (2007)、根室市教育委員会 (2007) が本地でノルゲスゲを記録していることから、少なくとも 90 年來の産地である。

塩性湿地は、潮汐による水位変動や堆積・侵食に伴う地形変化の影響を受けやすく、植生の遷移も速い (伊藤 1963)。今回確認した温根沼西岸南部の生育地は大規模な内湾の上部に位置する。従って、波浪といった環境変化の要因が少なく (坂倉 2004)、本種が生育可能な環境が安定して維持されやすかったと考えられる。こうした立地の塩性湿地は北海道内でも限定され、希少なノルゲスゲ産地として特筆される。一方、波浪や土砂流入の影響を受けやすい河口部の産地では本種の消長が激しい可能性がある。絶滅危惧種である本種の保全を考える上では、過去に報告のあった地点の再確認を進めるとともに、河口部における継続的な生育確認が重要である。

### **謝辞**

標本調査に当たっては、根室市歴史と自然の資料館の外山雅大学芸員、NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラストの樋口綾氏、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園の中村剛准教授、東隆行助教、神奈川県立生命の星・地球博物館の大西亘学芸員に便宜を図っていただいた。小樽市総合博物館の山本亜生学芸員、市立大町山岳博物館の千葉悟志学芸員、千葉県立中央博物館の斎木健一学芸員には、標本の画像を撮影していただいた。また、現地立入許可に当たっては、外山雅大学芸員、別海町郷土資料館の戸田博史学芸員に便宜を図っていただいた。神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏には本種の生育に関する貴重な情報をいただいた。本研究の一部は、(独) 環境再生保全機構の環境研究総合推進費 (4-2303, 研究代表 仲岡雅裕)、プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (研究代表

富士田裕子) および JSPS 科研費 (22K05697, 研究代表 矢野興一) により実施した。

### 確認標本

ノルゲスグ *Carex mackenziei* V.I.Krecz. (=*C. norvegica* Willd. ex Schkuhr, non Retz.)

北海道. 根室振興局. 根室市 春国岱 (M. Tatewaki s.n., Aug. 1934, SAPS 070118; 小林秀雄 746, 5 June 1985, 根室市歴史と自然の資料館 1995-946 as *C. canescens*). 根室市 風蓮湖東梅 (S. Akiyama s.n., 23 July 1935, SAPS 070837 & 070838 as *C. sorioskensis*). 根室市 温根沼 (K. Takita 1542, 10 July 1983, SAPT [in Takita collection] KCMH 001217; H. Ishikawa, H. Fujita & K. Shutoh 2071, 7 June 2025, SAPS 077097; O. Yano & K. Shutoh 25062901, 29 June 2025, OKAY 4 点). 根室市 コタンケシ川 (H. Ishikawa, S. Okuyama & K. Shutoh 468 & 486, 20 July 2023, SAPS 076236 & 076237). 釧路総合振興局. 厚岸町 別寒辺牛川 (K. Takita 7878, 26 June 2001, SAPT [in Takita collection]; Y. Takashima 5301, 26 June 2001, SAPS 023895). 厚岸町 大別 厚岸湾の塩湿地 (T. Katsuyama, Y. Takashima, H. Nakayama & C. Hasekura s.n., 24 June 2002, KPM-NA0122379 4 点, KPM-NA0122380 3 点, KPM-NA0122381 3 点, KPM-NA0122382 3 点).

ハクサンスグ *Carex canescens* L.

北海道. 釧路総合振興局. 浜中町 霧多布湿原 榊町 (A. Takai HK2012-063, 28 July 2012, KCMH 8030; KWNT-P 68 as *C. mackenziei*).

タルマイスグ *Carex buxbaumii* Wahlenb.

北海道. 根室振興局. 根室市 別海町 (M. Sato s.n, 23 July 1997, OKAY-13273 as *C. mackenziei*).

### 引用文献

- 秋山茂雄 1955. 極東亞產スグ屬植物. 257 pp., 248 pls. 北海道大学, 札幌.
- Egorova, T. V. 1999. The sedges (*Carex* L.) of Russia and adjacent states (within the limits of the former USSR). 772 pp. St. Petersburg Chemical-Pharmaceutical Academy, St.-Petersburg; Missouri Botanical Garden Press, Saint-Louis. (in Russian)
- 藤原陸夫 1988. ヒロハスギナモ北海道に産する. 植物地理・分類研究 36(1): 16.
- 合田勇太郎 2004. 北海道植物誌 一北海道植物分布記録保存集一. 430 pp. 中西出版, 札幌.
- 北海道 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 北海道, 札幌.  
(<http://rdb.pref.hokkaido.lg.jp/>, 2025 年 11 月参照)
- Hoshino, T., Katsuyama, T., Masaki, T. and Michikawa, M. 2020. *Carex* L. In: Ohashi, H., Boufford D. E. & Ohba, H. (ed.), Flora of Japan Volume IVa Angiospermae Monocotyledoneae (a), pp. 226–344. Kodansha, Tokyo.
- 星野卓二・正木智美・西本眞理子 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778 pp. 平凡社, 東京.
- Ishikawa, H., Fujita, H. and Shutoh, K. A conservation assessment for protected area designation based on floristic data of multiple wetlands in eastern Hokkaido, Japan. J. Asia-Pacific Biodivers. (accepted)

- 伊藤浩司 1963. 北海道東部塩湿地植物群落の研究. 北海道大学植物園研究報告 1(1): 1-101, pls. 1-6.
- 環境庁 (編) 1988. 第3回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書 (北海道). 環境庁, 東京.
- 環境省 (編) 2025. 第5次レッドデータブック: 絶滅の恐れのある日本の野生植物 総管束植物. 6352 pp. 環境省, 東京.
- 勝山輝男 2015a. スゲ属. In: 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編), 改訂新版 日本の野生植物 第1巻 ソテツ科~カヤツリグサ科, pp. 297-336. 平凡社, 東京.
- 勝山輝男 2015b. 日本のスゲ 増補改訂. 391 pp. 文一総合出版, 東京.
- 霧多布湿原トラスト 2004. 霧多布湿原いきものリスト 2004. 158 pp. 霧多布湿原トラスト, 浜中.
- 霧多布湿原ナショナルトラスト 2018. 霧多布湿原いきものリスト 2018. 115 pp. 霧多布湿原ナショナルトラスト, 浜中.
- Koopman, J. 2011. *Carex Europaea*. The genus *Carex* L. (Cyperaceae) in Europe, 1. Accepted names, hybrids, synonyms, distribution, chromosome numbers. 726 pp. Margraf Publishers, Weikelsheim.
- 牧野富太郎 1940. 牧野日本植物圖鑑. 1096 pp., 9 pls. 北隆館, 東京.
- 宮部金吾・三宅勉 1915. 権太植物誌. 648 pp., 13 pls. 権太序, 権太.
- Miyabe, K. and Tatewaki, M. 1934. Contributions to the Flora of Northern Japan IV. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13(4): 377-384.
- 宮脇昭 (編著) 1989. 日本植生誌 北海道 (第2版). 563 pp., 94 tabs. 至文堂, 東京.
- 中井猛之進 1915. 新稱『からふとすげ』. 植物学雑誌 29(338): (59).
- 根室市教育委員会 2007. 根室半島植物分布調査報告書. 99 pp. 根室市教育委員会, 根室.
- Ohwi, J. 1936. Cyperaceae Japonicae I. A synopsis of the Caricoideae of Japan, including the Kuriles, Saghalin, Korea, and Formosa. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., Ser. Biol. 4(5): 229-530.
- 坂倉範彦 2004. 潮汐環境の堆積物: 日本の干潟の理解に向けて. 化石 76: 48-62.
- すげの会 2018. In: 正木智美 (編), 日本産スゲ属植物分布図集, 765 pp. すげの会, 岡山.
- 高橋英樹 2025. サハリン島の植物. 791 pp., 36 pls. 北海道大学出版会, 札幌.
- 高橋英樹・高嶋八千代・滝田謙譲 2002. 別寒辺牛湿原とその周辺地域のフローラと絶滅危惧植物の現状. In: 辻井達一・橘ヒサ子 (編著), 財団法人前田一歩園財団創立20周年記念論文集 北海道の湿原, pp. 51-64. 財団法人前田一歩園, 阿寒.
- 滝田謙譲 1987. 東北海道の植物. 1116 pp. 自費出版, 釧路.
- 滝田謙譲 1996. 北海道における希少スゲ属植物の現状. In: 北海道絶滅危惧植物調査研究グループ (編), 北海道の絶滅危惧植物の現状, pp. 3-13. 北海道絶滅危惧植物調査研究グループ, 札幌.
- 滝田謙譲 2001. 北海道植物図譜. 1452 pp. 自費出版, 釧路.
- 滝田謙譲・高嶋八千代 2003. 厚岸湖畔の植生及び厚岸町の現存植生について. 平成14年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金研究報告, 厚岸.  
([http://www.akkeshi-bekanbeushi.com/josei/report/report\\_h14/2002\\_6.pdf](http://www.akkeshi-bekanbeushi.com/josei/report/report_h14/2002_6.pdf), 2025年11月参照)
- 滝田謙譲・高嶋八千代・神田房行 2001. 北海道厚岸町でヨツバスギナモを再発見. 水草研究会会報 73: 28-31.

- Toivonen, H. 1980. *Carex canescens* × *mackenziei*. A comparative study of two *Carex* species and their spontaneous hybrid. *Ann. Bot. Fenn.* **17**(1): 91–123.
- Toivonen, H. 2002. *Carex* Linnaeus sect. *Glareosae*. In: Flora of North America Editorial Committee (ed.), *Flora of North America; North of Mexico Volume 23 Magnoliophyta: Commelinidae (in part): Cyperaceae*, pp. 311–321. Oxford University Press, New York.
- Tolmatchev, A. I. 1974. *Carex* L. In: Tolmatchev, A. I. (ed.), *Key for the Vascular Plants of Sakhalin and Kurile Islands*, pp. 93–104. Nauka, Leningrad. (in Russian)
- 内山博之 2007. 根室市温根沼岸におけるアッケシソウを中心とした塩湿地植物群落について. *環境教育研究* **10**(1): 11–23.